

東日本大震災 災害活動報告

宮城県塩竈市浦戸消防団 団長 内海 勝



1. 管内被害状況

塩竈市浦戸消防団は、塩竈市の浦戸諸島（4島5区・桂島、石浜、野々島、寒風沢島、朴島）を管轄している消防団で、1本団2分団5部14班66名で構成されています。浦戸諸島には常設する消防署がないため、浦戸消防団は島の防災に対する重要な役割を担っております。

東日本大震災では、塩竈市で震度6強を観測し、人的被害は死者47名、行方不明者1名、住家被害は全壊672戸、大規模半壊1,455戸、半壊1,818戸、一部破損6,953戸となっており、うち浦戸諸島では、人的被害は死者2名（寒風沢島）、行方不明者1名（寒風沢島）、住家被害は全壊107戸、大規模半壊38戸、半壊37戸などの被害がありました。全島で居住地区が浸水し、寒風沢島と野々島の消防団器具置場が全壊流出、石浜では器具置場のシャッター等の破損被害があり、野々島の消防団ポンプ車も被害に遭い



津波により流出した消防団車両



桂島の被災状況空撮

ました。

【浦戸諸島】

- ・桂島 人口193人、世帯数82世帯、全壊38戸、大規模半壊8戸、半壊12戸
- ・石浜 人口48人、世帯数24世帯、全壊3戸、大規模半壊4戸、半壊9戸
- ・野々島 人口74人、世帯数37世帯、全壊31戸、大規模半壊9戸、半壊3戸
- ・寒風沢島 人口142人、世帯数65世帯、死者2名、行方不明者1名、全壊31戸、大規模半壊10戸、半壊11戸
- ・朴島 人口28人、世帯数14世帯、全壊4戸、大規模半壊7戸、半壊2戸

（人口、世帯数は平成24年6月30日現在、住家被害は平成24年5月1日現在）

2. 活動について

震災当時、第2分団（桂島）の分団長だった私は、その日、朝から海苔養殖作業を手伝っていました。午前中の作業が長引いたため、自宅で遅めの昼食をとっていると、いきなり下から突き上げられるような激しい揺れが発生しました。その揺れはなかなか治まることなく、治まりかけたかと思うとまた激しい揺れが起き、縦揺れから横揺れへと変わり、2～3分間は続いたと思われます。その当時は本当に生きた心地がしませんでした。

地震が治まるとすぐに消防団器具置場へ駆けつけると、日頃からの取り決めにより団員たちが次々に集まってきました。第2分団の団員は26名で、うち半数近くは島外に職場があるため、発災時には島におらず、島に残っていた分団長以下15名が参集しました。

地震による建物被害はそれほどでもありませんでしたが、すぐに防災行政無線で大津波警報が流れました。ここは島であるので周りを海で囲まれており、津波が来たらどれほどの被害があるか想像がつかしました。まずは、2名を見張り役として配置し、3名は避難広報活動、他の10名で海沿いの住宅を一軒一軒回り避難を呼びかけまし



野々島の被災状況



津波により損壊した防潮堤門扉

た。団員所有の軽トラック5台と島民の軽トラック5台により高齢者や足の不自由な方を軽トラックの荷台に乗せて避難所へ搬送しました。搬送人員は約30名程度だったと記憶しております。中には、チリ地震津波で自宅が被災しなかったことを理由に避難に応じなかった島民3名を説得して避難させたり、くすりなどの忘れ物を取りに自宅に戻ろうとした島民を帰宅させなかったりと避難誘導した団員の適切な対応で難を逃れた島民もいました。避難当地区において人的被害が無かったのは、常日頃から消防団員が高齢者等の要援護者の住宅をすべて把握していたことで、すぐに避難誘導ができたことが大きかったといえます。

私は津波への警戒のため、潮位の変化を見ようと船着場の岸壁のあたりを監視しておりました。すると、海面が1～2mくらい下がったかと思うと、ゆっくりと水かさが増してきました。チリ地震津波を経験していた私は、当時の状況と今回の海面変動とは違うなと感じておりました。チリ地震

の時に比べると海面の変動は穏やかでありましたが、その後、沖から次々に波が押し寄せ、水かさが増してきたかと思うと、その途端、一気に海面が岸壁の高さまでせり上がって、一気に船着場を超えてきました。その後は、とにかく必至で濁流から逃げるべく高台へ続く道をひた走りました。

当日、島に残っていた島民約150名全員が避難所へ避難した後、避難所を開設しました。避難所は桂島の高台のほぼ中央にあり、今は廃校になっている旧浦戸第二小学校であります。当時は、雪が降り寒さも厳しい状況でしたので、暖をとるために被災を免れた住宅や消防団器具置場からストーブなどの暖房器具や投光機、発電機を運び込んで避難者の支援にあたりました。また、無人となった住宅からの火災なども心配でしたので、消防団器具置場から消防機材を避難所へ搬送し、二次災害へ備えました。

離島での生活では悪天候で海が荒れ、船が欠航して食糧が届かなくなることもあるため、各家庭では大型の冷凍貯蔵庫にかなりの量の食糧品を蓄えております。被災を免れた冷凍貯蔵庫を団員により運び入れて避難所の食糧としました。発災から4日後になると、自衛隊による飲料水や食料の空輸がはじまりました。ヘリコプターによる

空輸であるため、団員は着陸地点の安全確保のための警備や避難所までの救援物資搬入作業などを行いました。また、沿岸部の道路は津波により瓦礫やブロック塀の残骸などがゴロゴロしており通行不能になっていましたので、団員たち少しでも早く通行ができるようにと疲れた身体に鞭を打って、この障害物を取り除く作業も行いました。

3. おわりに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、誰もが予想もしていない、これまでで最悪の被害をもたらしました。私たちの住む東北では、近い将来に発生すると予想されていた宮城県沖地震に備えておりましたが、このような規模の大地震が起き、想定外の事態となりました。1000年に一度の地震であったと言われておりますが、今もまだ各地で余震が続いており、油断はできない状況であります。私たちの住んでいる日本は地震が多い国でありますので、皆様におかれましては、常日頃から地震への備えを万全にしておいてもらいたいと思います。

最後になりますが、全国各地からたくさんの方の救援物資や義援金など、多大なるご支援、ご協力をいただきました。これまで受けてきたたくさんのご恩は決して忘れることはできません。塩竈市そして浦戸諸島におきましては、もとの生活に戻るにはまだまだ時間がかかると思いますが、着実に復興に向けた歩みを進めております。皆様には元気な私たちを見ていただきたく思いますので、ぜひ足を運んでくださるようお願いいたします。全国の関係者の皆様から感謝を申し上げ活動報告とさせていただきます。



桂島海水浴場の被災状況